

目的 家庭洗たくにおいては、手洗いもよく行なわれる。又、衣料品によっては、取扱
 い絵表示で手洗い洗たくを奨めているものもある。そこで、毛製品を例にとり、種々の手
 洗い方法で洗浄力、収縮率、風合などに及ぼす影響を検討し、適切な手洗い洗たくについ
 て考察した。

方法 洗い方：手洗い もみ、つかみ、ふり、押し洗い

：洗たく機洗い 強水流（ネット使用、ナシ） 弱水流

洗浄力は、人工汚染布（毛、綿）、天然よごれ（えり布）を用いて評価した。収
 縮率は、面積フェルト収縮率によって求めた。風合評価は、官能検査による一対
 比較法により行なった。

- 結果
- 1 洗浄力は、もみ～ふり＞つかみ～強水流（ネット使用）＞押し～弱水流の順
で低かった。
 - 2 収縮率は、もみ～つかみ＞強水流（ネット使用）＞押し～ふり～弱水流の順
で小さかった。
 - 3 洗浄力、収縮率、風合評価の結果を総合すると、収縮や風合等の影響をあま
り考慮しないでよい衣料品、例えば、下着、ハンカチ、靴下などは、ふり、
もみ洗いが良い。又、収縮、風合等を考慮すべき衣料品、例えば、毛製品や
デリケートなおしゃれ着などは、ふり洗いが適切である。